

榎木ほのぼのサロンの取り組み

おしゃべりを通じて心豊かに

榎木町サロンスタッフ

榎木ほのぼのサロンの概要

榎木町には2つのサロンがあります

榎木町在宅ケアを支える会（榎木サロン）

・サロン立ち上げの理由

平成8年と9年に南郷里社会福祉協議会主催による「いきいき介護・福祉ボランティア講座」があり、その受講者により「南郷里在宅ケアを支える会」が発足、東部ステーション(郷里荘)へ食器洗いなど、交代で行っていた。その内町内の受講者の中で、「私達で何かやりたいな」という意見が出た。町内「在宅ケアを支える会」会員の賛同を得る。

・サロンの名称

「榎木町在宅ケアを支える会」とする。

・自治会との関わり

平成13年、立ち上げにあたり、「自治会長」「福祉委員」「民生児童委員」の方と「榎木町在宅ケアを支える会」の会員6名との話し合いの場を設けて理解を得る。

自治会より助成金として年間5,000円決定。

・ サロンの内容

- ①対象者・・・数え年80才～
- ②開催日と内容・・・ボランティア(スタッフ)の中で勤務者が何人かあったので、土曜日か日曜日の午後からお茶とお菓子で「おしゃべり会」とする。最初から無理しないように年2回開催とする。
- ③対象者の人には案内状を作成し、スタッフで手分けして配布する。
- ④世話役は1年交代でする。
- ⑤会費・・・無料(自治会助成金5,000円と「南郷里在宅ケアを支える会」助成金1,500円合計6,500円で賄う)

・ 初めての開催

日時 平成13年7月22日(日) 午後2時～

場所 榎木町会館 参加者 12名 スタッフ 6名 計18名

内容・・・土用もち(もち米、きな粉、砂糖はスタッフ持ち寄り。小豆、割り箸購入)

講師 藤本重夫様 「介護保険の説明」

第2回目 平成13年12月16日(日)～平成15年まで年2回の計6回開催(各回参加者20名前後)

「おしゃべり会」から手料理による「昼食会と語らいの集い」へ

平成16年に「手作り料理の食事会にしようか？」とスタッフより提案があり昼食会に変更する。

①内容・・・今まで通り年2回開催。事前にスタッフが寄ってメニューを相談する。

材料はスタッフの各家庭に有るもの(野菜・米・調味料など)を持ち寄る。無い人は買ってまでは持って来ない。出来るだけ旬の物を使用。不足の材料は会計で買う。

②予算・・・南郷里在宅ケアを支える会2000円＋自治会助成金5000円＝7000円(不足金が出たらスタッフで割り勘する)

③当日の買い物・・・世話役がスタッフの中で協力者を頼み、事前に買い終える。



第1回「昼食会と語らいの集い」

事前に手分けして案内状を配布する。

日時 平成16年6月27日(日) 昼12時～ (スタッフは8時集合)

場所 榎木町会館大広間

食事メニュー ・冷やし中華 ・おにぎり ・デザート(牛乳寒) ・漬物

⑨漬物、米はスタッフの持ち寄り

余 興 (スタッフの指導で) ・手芸(におい袋作り) ・体操 ・漢字クイズ

参加者 17名 スタッフ 7名 計24名

ほのぼのサロン

ほのぼのサロンの開設の趣旨

- ① 昔は、お年寄り仲間が個人の家へ遊びに来て火鉢にあたり、世間話をしながら煮物や漬物でお茶を飲んで半日過ごす事が当たり前のように行われていた。
- ② 時代も変わって、法事や結婚式に呼ばれる事も少なくなり、田んぼや畑に出て立ち話をしている姿を見かける事もほとんどなく、個人の家には用事がない限り「邪魔するから」と行かなくなった。
- ③ 核家族化により、静かな生活の中で寂しさが増し楽しみが少なくなった。

スタッフ集め

榎木サロンのスタッフの中で、勤務をしていない人に声をかけて3人で始める。
(回覧板で募集をしたが応募者が無かった)

内容

- ・おしゃべりを中心とし、参加者の要望があれば、スタッフが準備をする。
- ・対象者 一人暮らしの人 ・ 数え年75才以上の人。
- ・開催日 毎月第1・第3火曜日 ・時 間 午前9時～11時30分
- ・場 所 榎木町会館 第1・第2会議室
- ・会 費 1回 100円 (お茶・お菓子代) 会費入れ箱に各自入れてもらう

自治会長への説明と町内の人への理解を得る。

- ・回覧板に趣旨を書いたチラシを入れて各家庭へ回し、対象者の人や家族にも同時に理解してもらう。

初めての開催日

日 時 平成20年12月16日(火) 午前9時～11時30分
参加者 9人 スタッフ 3人 計12人